令和４年度

高川原学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇自分で考え，判断し，進んで学習する児童の育成

〇ポジティブな行動支援を取り入れた授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校　長	吉本　憲司
		教　諭	近藤　淳子
大宮由樹子		教　諭	平野　育子
		教　諭	中井　紀子

校長

吉本　憲司

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇朝の活動の時間に漢字の読み書きや計算を繰り返し行い，ある程度の定着が見られる。 ●知識・技能の習得状況に個人差が大きい。語彙が少なく，問題文や長文を正確に読み取ったり，聞き取ったりす	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けている。 ・文章を正しく読んだり，　聞き取ったりすることができる。 ・語彙数を増やし，目的に応じて適切な文章を書くことができる。	・ＩCT機器を活用するなど，積極的に授業改善を図るとともに，個別指導を充実させる。 ・「朝の活動の時間」を活用し，漢字・計算・視写・聴写を計画的に行う。定期的にミニテストを行う。	・担任の読み聞かせを月１回以上行う。 ・視写・聴写については，朝の活動で月１回以上は行い，優れた文章に触れる機会をもつようにする。	・教科学習や読み聞かせ等，言葉を大切にした取り組みを継続することで，語彙が増えつつあるが，適切に使う力は，まだ十分に身についていない。 ・一人一台端末を活用し，教科学習の復習をしたり定着を図ったりできた。	・身に着けた技能を定着，活用できるような取り組みを行う。 ・一人一台端末を，さらに効果的に活用し，授業改善を図ったり，個に応じたスキル学習で，自信をもたせたりするようにする。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇ペアや小人数での話し合いでは，発表する意欲が高まっている。 ●個人差が大きい。自分の考えや思いを文章にまとめたり，全体の場で発表したりする力に課題がある。	・目的に応じて，自分の考えをまとめ，進んで表現することができる。 ・友達の考えを聞いて自分の考えと比べ高め合いながら学習することができる。	・自分の考えを筋道立てて表現する手引きを準備し，児童が自分の考えを表現しやすくする。 ・タスクフォースの手法や，思考の流れを助ける思考ツールなどを活用していく。	・タブレットの特性を生かして，自分の考えを表現しやすくしたり，人の意見を視覚的にとらえられたりするようにする。	・タブレットを使うことで，表現の工夫をしたり，児童相互の考えを共有したりするのに有効であった。 ・紙媒体やホワイトボードなど従来のツールを使っての指導も，考えを高めるのに役立った。	・ゴールに向かって，　考えが多面的に広がるように，自分の思いを自分の言葉で伝えたり，図を描く・具体物とつなげるなどの思考をしたりできるよう授業改善をする。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇家庭学習の習慣がついている児童が多く，与えられた課題にはまじめに取り組んでいる。 ●集中力の持続や話を聞くことに課題がある。	・課題や自主学習に主体的に取り組むことができる。 ・学ぶ楽しさや喜びを感じることができ，自信をもつことができる。	・「授業の準備」を徹底させる。 ・児童が主体的に学習に取り組める単元構成やめあての設定をする。 ・授業中，称賛する機会を増やす。 ・児童が練習問題に取り組む時間を確保する。	・単元の終わりやグループ学習の時に，タブレットを活用し，児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 ・引き出したい行動が現れた時は，すぐに称賛し，やる気を高めるようにする。	・進んで課題や自主学習に取り組む児童が増えてきている。 ・学ぶ楽しさや喜びを感じることができる児童は増えてきているが，自信をもつまでには至っていない。	・指導者が，タブレットを使う目的を明確にして，使う場面や活用方法を工夫する。 ・表現力を培うために，手引き等を使って，表現する機会を増やす。

令和４年度　学力向上ロードマップ

